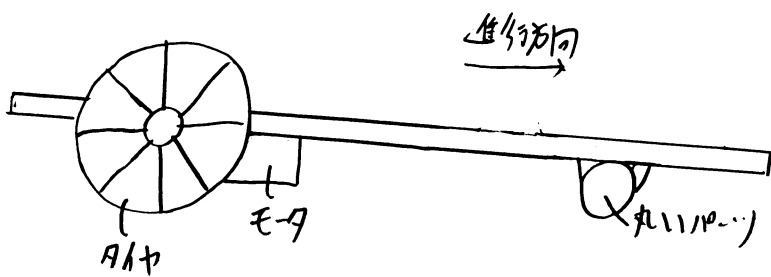




この作品はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

学校名	埼玉大学教育学部附属中学校		
(ふりがな)	カーナル		
チーム名	KACR		
ロボコンルール (名称とURL)	名称: https://sites.google.com/view/digitalclassroom-technology/	都道府県名	埼玉県
製作期間	2020年9月頃から2020年12月頃まで	製作時間	10時間
ロボットに関する写真と図 必ず、ロボットの概要や機構等の特徴がわかる写真や図等を1~4枚で掲載する。 写真や図に記号等を書き込み、下の枠「ロボットのアイデア概要」で解説する。			
ロボットのアイデア概要 【報告書要約】 どのような動きを実現するために、具体的にどのような素材や機構を用いて実現したのか、枠いっぱい解説を書き込むこと。	消毒液の入ったボトルを傾けて消毒液を出そうと考えたため、両側に機構を収め、ボトルを傾けた部分が傾くようにした。そこでボトルを傾けているところや両側に機構を収めるように万能ジョイントを用いることで長さの微調整が簡単にでき、接着できるとした。また、それを動かすモーターを傾け、ゆがみと動かしやすく止めるとした。①傾け部を取りつける部分は、スランシの棒と六角ソフトを用いることで摩擦を少なくし、簡単に上下動が動くとした。また、斜に刺さるように棒の先端を曲げた。②		
参考資料 製作上参考にした資料や、参考にした先輩のロボット等の情報についてできるだけ詳しく解説する。	技術分野の教科書		

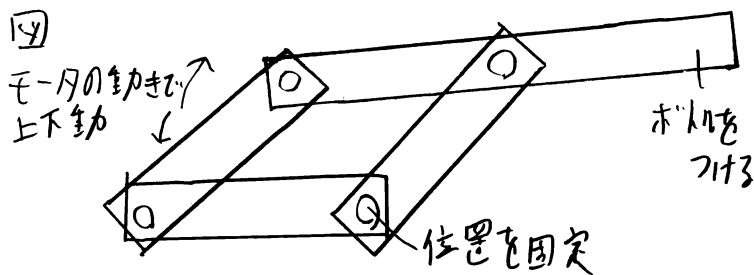
走行部分に ついて



メカにした分、小回りかま(ように、モータのギアを低速にした。

このロボットの走行部分は、もともとクローラベルトを用いる予定だったが、液をこぼす部分について、出てくるように、前に傾いていることが望ましくなった。そこで、後輪をメカにし、前輪をよく滑る小さな丸いパーツにし、前傾姿勢にした。

液をこぼす部分について



ボトルに入った液をこぼす部分では、両で機構を使い、図の左端のフレームが上下動することによって、ボトルをひねる部分が傾き、液がこぼれる仕組みになっている。

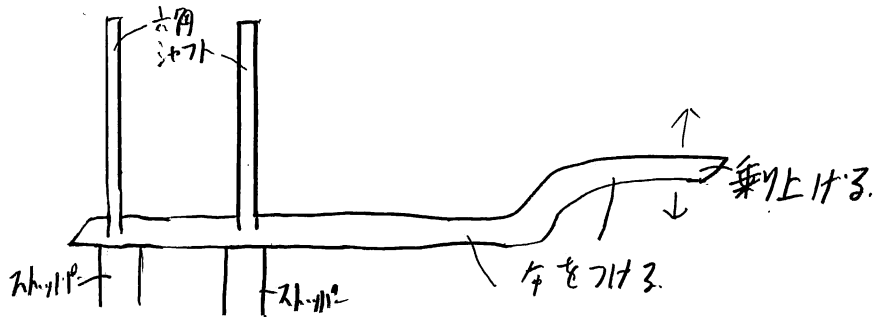
また、作業を行う前の状態では、ボトルに入っている液はボトルの半分ほどになるため、液を節約するという面でも考えを実現させた。

ただし、ボトルの傾き方が小さいため、よりボトルが丸ましく傾くように、走行部分のそれぞれのパーツの大きさを変えることで、そのものの傾きを生み出し、傾き方を増幅させた。

布を動かす部分について

高さの異なるテーブルを扱う必要があるため、布及びそのつけた部分を上下に動かす必要がある。そこで、モータを使わないようにするため、ロボット本体が前に動くときに布のついたパーツが動くようにした。図の右側の曲がっているところを使ってテーブルに布が乗りあがるため、高さの異なるテーブルにも

④



対応が出来る。また、六角シャフトにスチールの役割を
するものをパイプがフェール
に斜上げる事が出来なく
なるほど下がる事を防いだ。